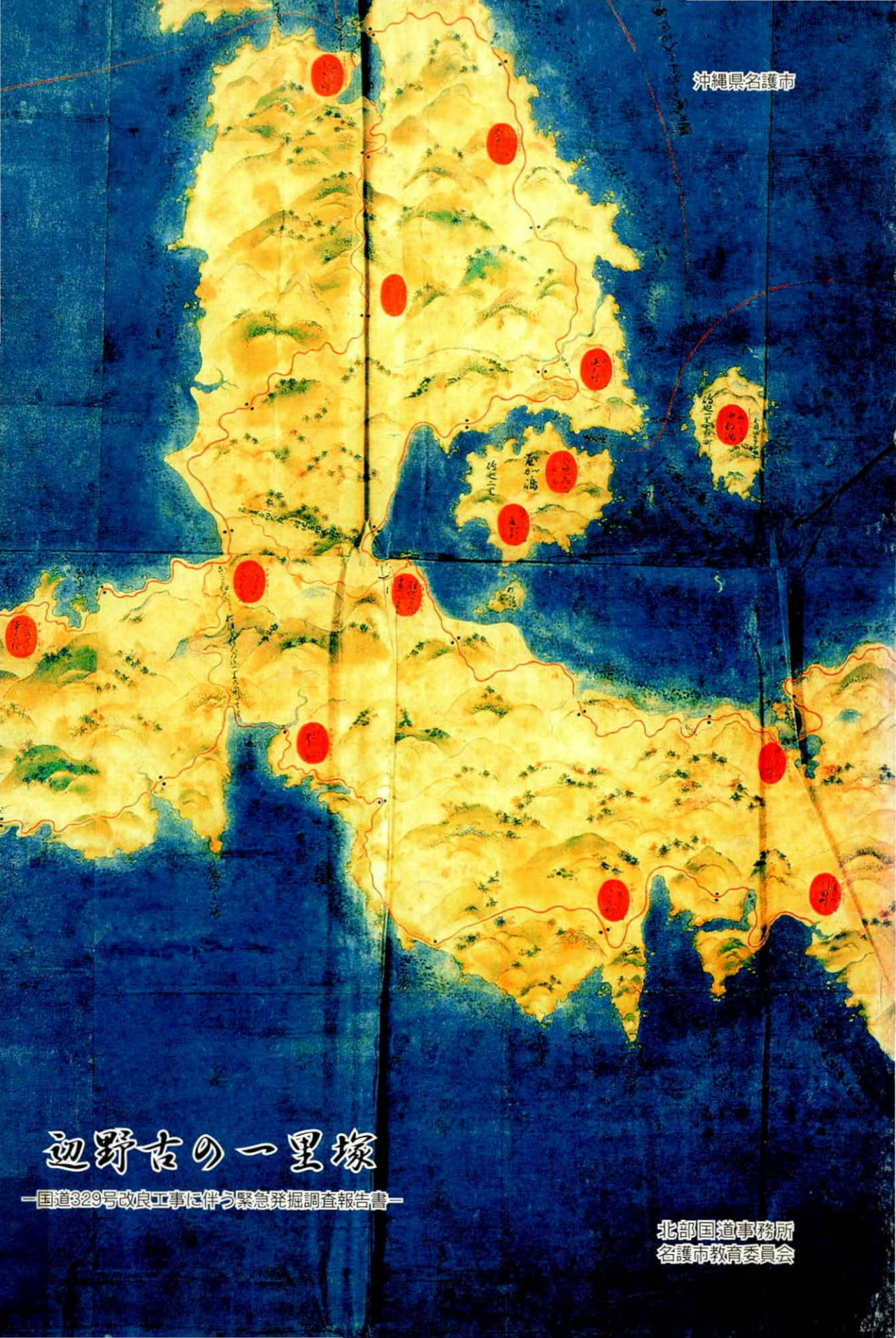


沖縄県名護市



# 辺野古の一里塚

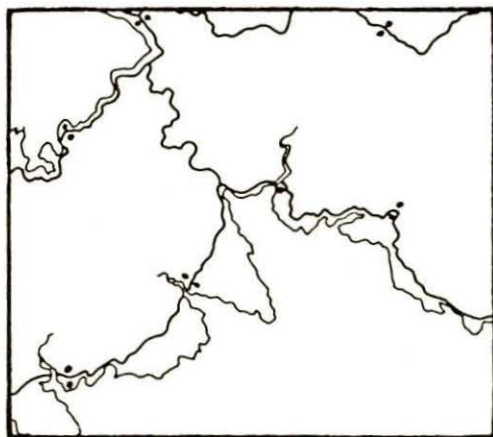
—国道329号改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—

北部国道事務所  
名護市教育委員会

沖縄県名護市

# 辺野古の一里塚

— 国道329号改良工事に伴う緊急発掘調査報告書 —



北部国道事務所  
名護市教育委員会

## は じ め に

織田信長・豊臣秀吉の時代に始められ、徳川幕府によって全国の主要街道に設置されるようになったという「一里塚」は、沖縄にも築かれていました。現在、県内では恩納村の「真栄田の一里塚」が村の指定文化財として知られていますが、沖縄県教育委員会の行なった「歴史の道調査」で、その他にも県内の各地に「一里塚」の地名や跡が残っていることがわかりました。「辺野古の一里塚」も「歴史の道調査報告書」の中で紹介されましたが、その存在は、すでに辺野古区字誌編纂事業の中の地名調査で知られ、詳しい調査が待たれていました。

ところが、国道329号改良工事に伴い、一里塚の存在する丘陵が切り崩されることになり、平成4年度に緊急調査を実施しました。その結果、かなり破壊されているものの、旧道をはさむように築かれた一対の塚を確認することができました。本報告書は、その調査の成果をまとめたものです。

ここ数十年の間、大型化した開発事業に伴い、私たちの周りの自然環境や歴史的環境が大きく変化しています。暮らしが便利になり社会資本が整備されていく一方で、何千年、何百年、何十年と受け継がれてきた「自然」そして「歴史的な遺産」を後世に伝えていくのも私たちの大切な役目です。この「一里塚」は解体され、使われていた石を保存し近い将来復元されることになりました。一里塚の存在した当時の様子を少しでも思い浮かべることができ、本報告書とともに歴史の学習に役立てることができれば幸いです。

最後に、調査並びに報告書の作成にご協力いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。

平成6年（1994年）3月

名護市教育委員会

# 例 言

1. 本報告書は、平成4年度（1992年度）に実施した「国道329号改良工事に伴う、辺野古の一里塚の緊急発掘調査」の成果を記録したものである。

2. 調査は、北部国道事務所から委託を受け、名護市教育委員会（主管・社会教育課）が実施した。

3. 発掘調査は次の体制で行った。

|         |   |               |
|---------|---|---------------|
| 調査総括    | 教 育 長   | 比 嘉 敏 雄       |
| 調査責任者   | 社会教育課長  | 島 袋 正 敏       |
| 総務責任者   | 社会教育係長  | 宮 城 満         |
| 総 務     | 社会教育課事務主事   | 比 嘉 文 子       |
| 調 査 員   | 社会教育課文化財担当  | 島 福 善 弘・比 嘉 久 |
| 調査補助員   | 岸 本 利 枝   |               |
| 資料整理員   | 仲 村 美代子・古 波 ひとみ・大 城 かなえ   |               |
| 発掘作業員   | 屋 良 朝 安・照 屋 ハ ル・上 間 末 子・比 嘉 ヨ シ<br>古波蔵 ヨ シ・仲 田 秀 子・小 田 富美子・新 田 ヤ エ<br>島 袋 愛・許 田 正 治 |               |
| 協 力     | 仲 村 剛（島土木）・島 袋 権 勇（辺野古字誌編纂事務局）<br>辺野古公民館  |               |
| 写 真 測 量 | 株式会社エス・テック  |               |
| 県外調査協力  | 福井県金津町教育委員会<br>三重県熊野市教育委員会  |               |

4. 本報告書作成にあたっては、主に以下の文献を参照した。

- ①『沖縄県歴史の道調査報告書』Ⅰ～Ⅵ（沖縄県教育委員会発行）
- ②『琉球国絵図史料集第1集—正保国絵図及び関連史料—』（沖縄県教育委員会平成4年3月）
- ③『国絵図』（川村博忠著 吉川弘文館 平成2年12月1日）
- ④『国史大辞典』（国史大辞典編集委員会 吉川弘文館 昭和58年10月1日）
- ⑤『名護市史本編11—わがまち・わがむら—』（名護市役所 昭和63年3月31日）

## 目 次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| はじめに                    | 2  |
| 例 言                     | 3  |
| 目 次                     | 4  |
| 図・写真・表目次                | 5  |
| <br>                    |    |
| 第1章 辺野古の一里塚発掘調査報告       | 6  |
| 1. 調査目的と調査経過            | 6  |
| 2. 位置と環境                | 9  |
| 3. 調査結果の詳細              | 12 |
| ① 範囲と方法                 | 12 |
| ② 遺 構                   | 14 |
| ③ 出土遺物                  | 25 |
| <br>                    |    |
| 第2章 史（資）料に見る一里塚         | 30 |
| 1. 「正保三丙戌年絵図帳写」に見る一里塚   | 30 |
| 2. 「琉球国絵図」に見る一里塚        | 31 |
| 3. 『沖縄県歴史の道調査報告書』に見る一里塚 | 34 |
| 4. 国指定の一里塚              | 39 |
| 5. 県外の調査から（県・市町村指定の一里塚） | 44 |
| 6. 全国の地名に残る「一里塚」        | 46 |

## 図・写真・表目次

|                    |    |
|--------------------|----|
| 図1／名護市の位置図         | 7  |
| 図2／辺野古の一里塚と周辺の文化財  | 8  |
| 図3／辺野古の一里塚周辺の小地名図  | 10 |
| 図4／辺野古の一里塚の位置図     | 11 |
| 図5／発掘調査グリット設定図     | 13 |
| 図6／平断面図（東塚）        | 15 |
| 図7／平断面図（西塚）        | 17 |
| 図8／横断面図            | 18 |
| 図9／出土遺物実測図(1)      | 26 |
| 図10／出土遺物実測図(2)     | 27 |
| 図11／琉球国絵図に見る一里塚    | 33 |
| 写真1／発掘風景           | 12 |
| 写真2／東塚空撮           | 14 |
| 写真3／西塚空撮           | 16 |
| 写真4／発掘前の現場         | 19 |
| 写真5／伐採後の発掘現場       | 19 |
| 写真6／東塚雑草除去後        | 20 |
| 写真7／東塚断面           | 20 |
| 写真8／東塚の石積          | 21 |
| 写真9／東塚の石積          | 21 |
| 写真10／西塚雑草除去後       | 22 |
| 写真11／西塚断面          | 22 |
| 写真12／西塚の石積         | 23 |
| 写真13／西塚の石積         | 23 |
| 写真14／発掘風景          | 24 |
| 写真15／写真測量風景        | 24 |
| 写真16／出土遺物(1)       | 28 |
| 写真17／出土遺物(2)       | 29 |
| 写真18／恩納村真栄田の一里塚    | 38 |
| 写真19／福井県金津町千束の一里塚  | 44 |
| 写真20／三重県熊野市二木島の一里塚 | 45 |
| 写真21／三重県熊野市有馬の一里塚  | 45 |
| 表1／出土遺物一覧表         | 25 |

# 第1章 辺野古の一里塚発掘調査報告

## 1. 調査目的と調査経過

中国から導入され、織田信長・豊臣秀吉の時代に築かれたという一里塚は、徳川幕府の初期に日本橋を起点として全国の主要街道に設置され制度化されたという。それは、旅行者の目標のほか馬や駕籠の賃金を決める目安にも使われていたようだ。

沖縄県立図書館比嘉春潮文庫に所蔵される『正保三丙戌年絵図帳写』に、「浦添間切内えそ村壱里山…」という記載があり、当時、沖縄にも一里塚（山）が築かれていたことがわかる。そして、同じ頃に作成された「琉球国絵図」にも、道筋をはさむように印された黒丸で「一里塚」が記載され、ちょうど「辺野古の一里塚」と思われる位置にもその黒丸印があった。さらに、数年前から進められていた辺野古字誌編纂委員会による小地名調査の中で、「イキリヅカ」と呼ばれる所に崩れかかっている二つの塚が存在し、かつて、その間を名護へ向かう道が通っていたことがわかり、その塚が「辺野古の一里塚」であることがわかった。

ところが、同じ頃に辺野古を通る国道329号の改良工事計画が進められ、塚の存在する丘陵が切り崩されることになった。調整の結果、現地保存が困難になり、原因者負担による記録保存のための緊急発掘調査を行なうことになった。

調査は、名護市教育委員会が行ない、一里塚の構造を明らかにすること、築かれた年代を示す資料を発掘すること、当時の道の遺構を検出することを目的として行なわれ、さらに地元の要望により、将来の移転復元をめざし、塚に使用されている石を確保しておくことになった。

まず、発掘範囲を確定するため、平成4年（1992年）10月に試掘調査を行なった。特に、近世の道の遺構に注意しながら試掘を行なったが、近年、耕作地として利用されていたこともあって、遺構は残っていなかった。そこで、本調査は二つの塚を中心に行なうことになった。

本調査は、平成5年（1993年）1月に実施し、当改良工事を請け負った業者の協力を得て調査範囲の伐採を行ない、塚の輪郭を検出した後、写真撮影実測を行なった。その後、塚の構造を調査しながら解体した。同時に塚周辺の発掘調査を行なったが、遺構は確認できなかった。発掘終了後、塚を復元するために使用されていた石を保存した。

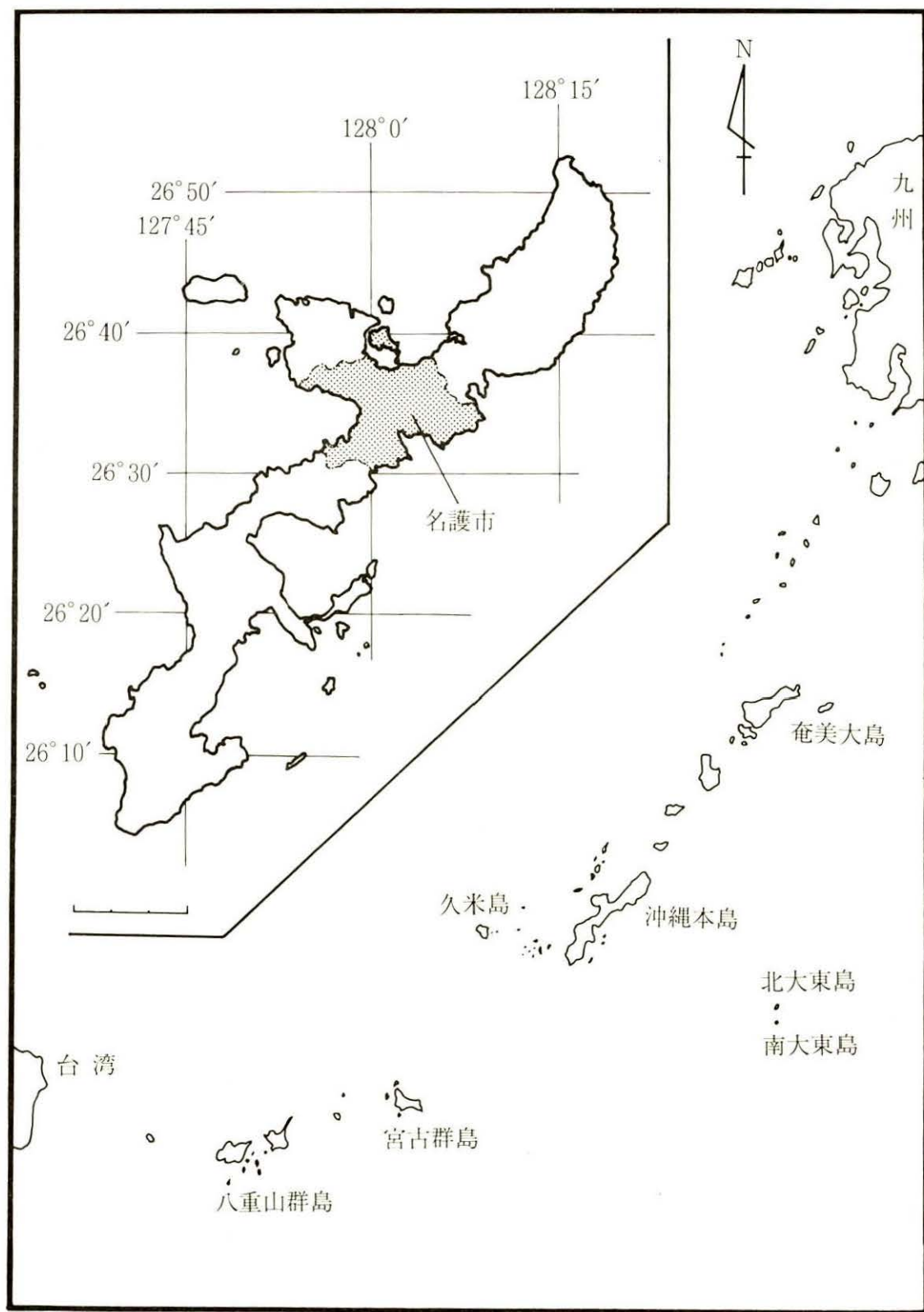


図1 名護市の位置図



## 2. 位置と環境

辺野古は、名護市役所からは南東の方角に約9kmの地点に位置し、太平洋に面する。久志岳(335m)と辺野古岳(303m)に源を発する辺野古川(流長4.23km)は、集落の南を流れ太平洋に注ぐ。河口付近の沖積地に、クシヌウタキを背にして放射状に形勢された古い集落と、その北の台地に、戦後、米軍基地の設置に伴い形勢された新しい集落がある。集落の北を国道329号線が通り、市街地へつながる横断道路となっている。辺野古原・思原・長崎原・下福地原・上福地原・前垣原・港原・親里原・前上原の9つの小字からなり、親里原は発祥の地と伝え、集落は辺野古原に位置する。思原・長崎原・下福地原は米軍基地のキャンプ・シュワープが占める。一里塚は港原にある。

基地内南側の海岸に沖縄貝塚時代後期(約1,500年前)の大又遺跡・思原遺跡がある。近世の辺野古は、1673年に名護間切と金武間切を割いて新しく久志間切が成立するまでは、金武間切に属していた。17世紀中頃の『絵図郷村帳』と『高究帳』にも「金武間切・へのき村」と記され、『琉球国由来記』(1713年)には「辺野古村」「辺野湖村」とある。『高究帳』による石高は、43.7石余り(田40.9石余、畠2.9石余)で、水田の比率の高い村であったことがわかる。

近代の統計資料によると、明治13年には、戸数57戸・人口258人、同36年には299人。同年の平民人口277人・士族人口は13人で、久志間切では士族人口の少ないところである。大浦湾に注ぐ美謝川(別名福地川)の中上流には、明治中頃から本部・名護方面からの移住者が屋取集落を形成していたが、戦後の土地接収で集落はなくなった。その近くに明治天皇の御大葬のときに造林された「明治山」がある。

現在の辺野古は、人口1,436人(男679・女757人)、世帯466戸で、久志地区では最も大きな行政区である。

「琉球国絵図」によると、首里城を発し沖縄本島の東海岸に沿い「東海道」が北上し、12番目の一里塚の印がちょうど「辺野古の一里塚」にあたる。一つ手前が久志、一つ先が大浦にあたる。その先には、現在の三原、嘉陽、底仁屋、慶佐次にあたる場所に一里塚の印がある。「東海道」はその先の「川田村」で陸路が切れ、「川田村ヨリあは村迄海上四里」の海路に出る。辺野古から大浦の向かう途中、名護に向かう道が分かれ、「絵図」に、その道は「なこ間切大道ヨリオほら村大道迄一里廿三町四十間」と記す。太平洋に突き出した岬には「へのき崎」の文字が見える。現在の辺野古川のところには「歩渡り」の文字が見え、当時その川には橋がなく、舟を使わずに川を渡ることができたのであろう。

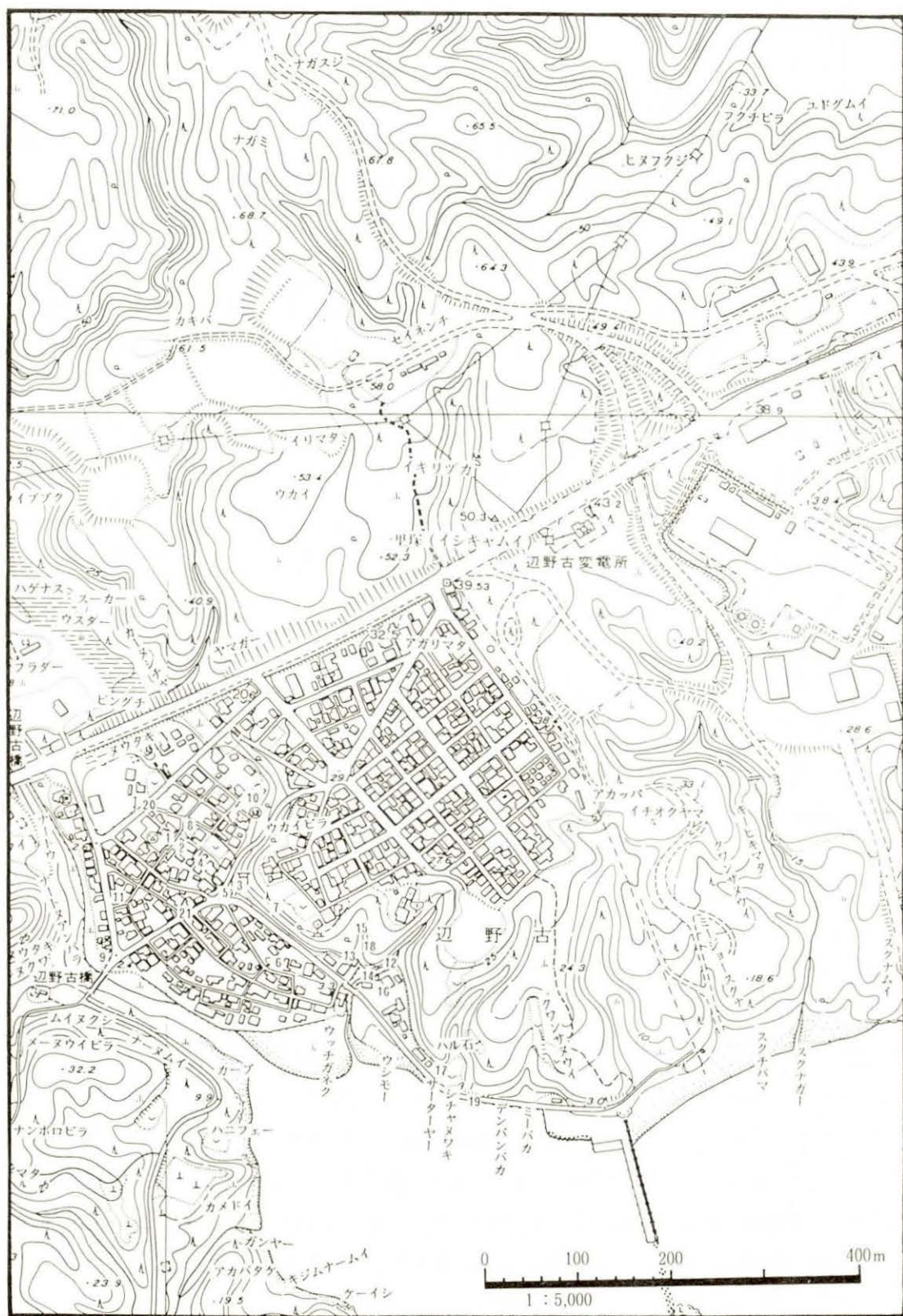


図3 辺野古の一里塚周辺の小地名図

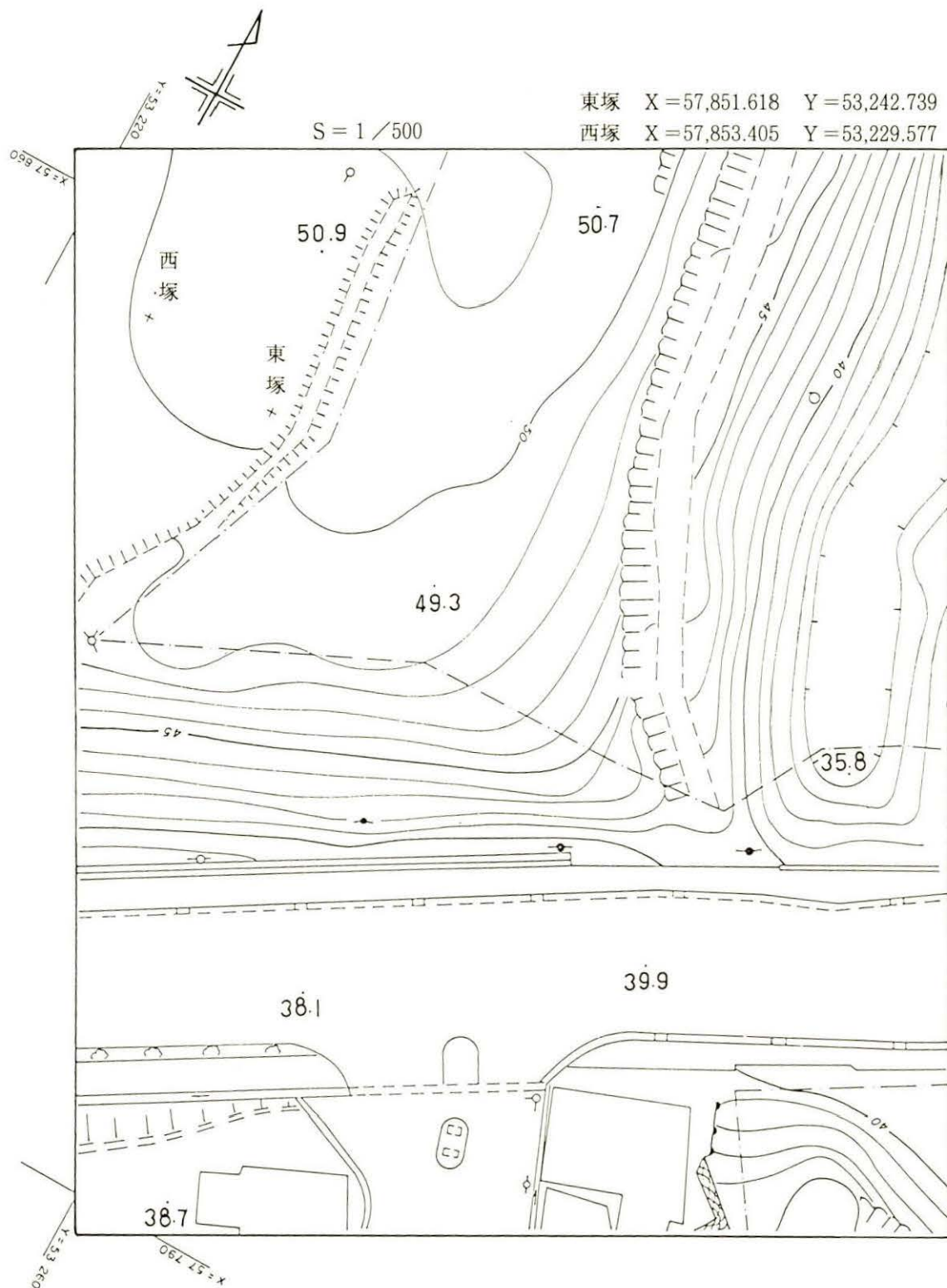


図4 辺野古の一里塚の位置図

### 3. 調査結果の詳細

#### ① 範囲と方法

辺野古の一里塚は、集落の北側にある標高50.9mの丘陵上に位置し、そこを辺野古では「イシキヤームイ」と呼んでいる。かつて集落から通じていたという道は、基地建設に伴う道路工事のため傾斜部分が切り崩されたが、丘陵上には残っている可能性もあったので、発掘調査は、まずその旧道の跡の確認から始まった。

二つの塚を中心に、図5のように2m×2mのグリッドを設定し、塚の間にあたるF-10とF-14を試掘したが旧道は確認できなかった。よって、塚および塚の周辺を発掘範囲とし調査を行なうことになった。

調査態勢を整える間、国道事務所及び改修工事請負業者によって、塚周辺の伐採が行なわれ、調査を着手したのは1月中旬。試掘調査のグリッドを復元し、H-9・H-10・C-11・D-11・K-9・K-10を掘り下げるとともに、塚を写真測量するため、塚に生えている草などを除去した。除去後、平面・断面の写真撮影・測量を行なった。

写真測量終了後、東側の塚を「東塚」、西側を「西塚」とし、構造を知るため塚を解体した。それぞれの塚を十字に4等分し、その4分の1に当たる部分を切り取った結果、周りに石積みを巡らし、その中に土を盛っていることがわかった。

そこで、盛土の部分を除去しながら時代を示す遺物をさがしたが、決定づける遺物はなかった。最後に、石積みだけを残し平板測量を行ない、発掘を終了した。なお、石積みの石は、復元に向けて保存しておくことになった。



写真1 発掘風景

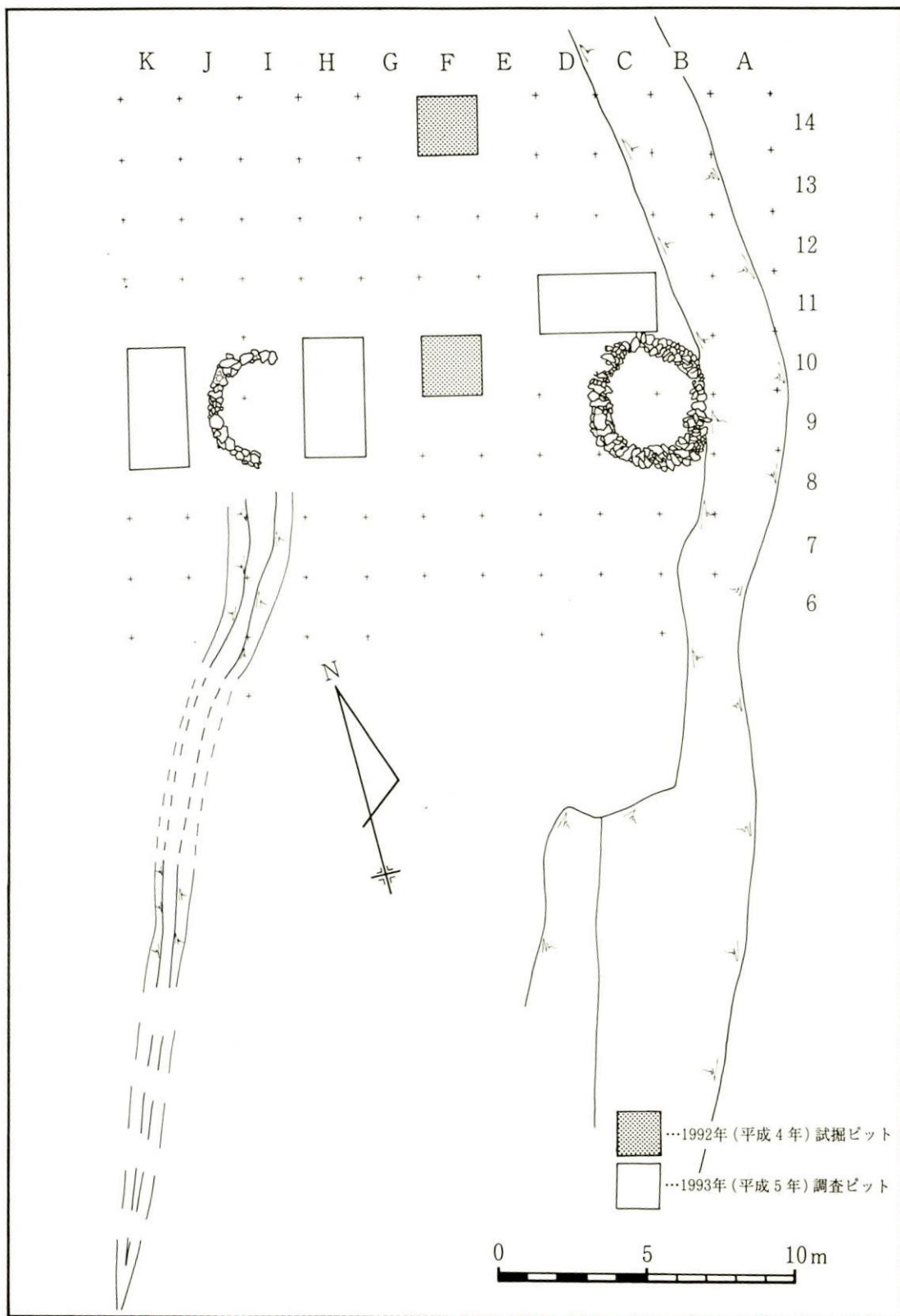


図5 発掘調査グリッド設定図

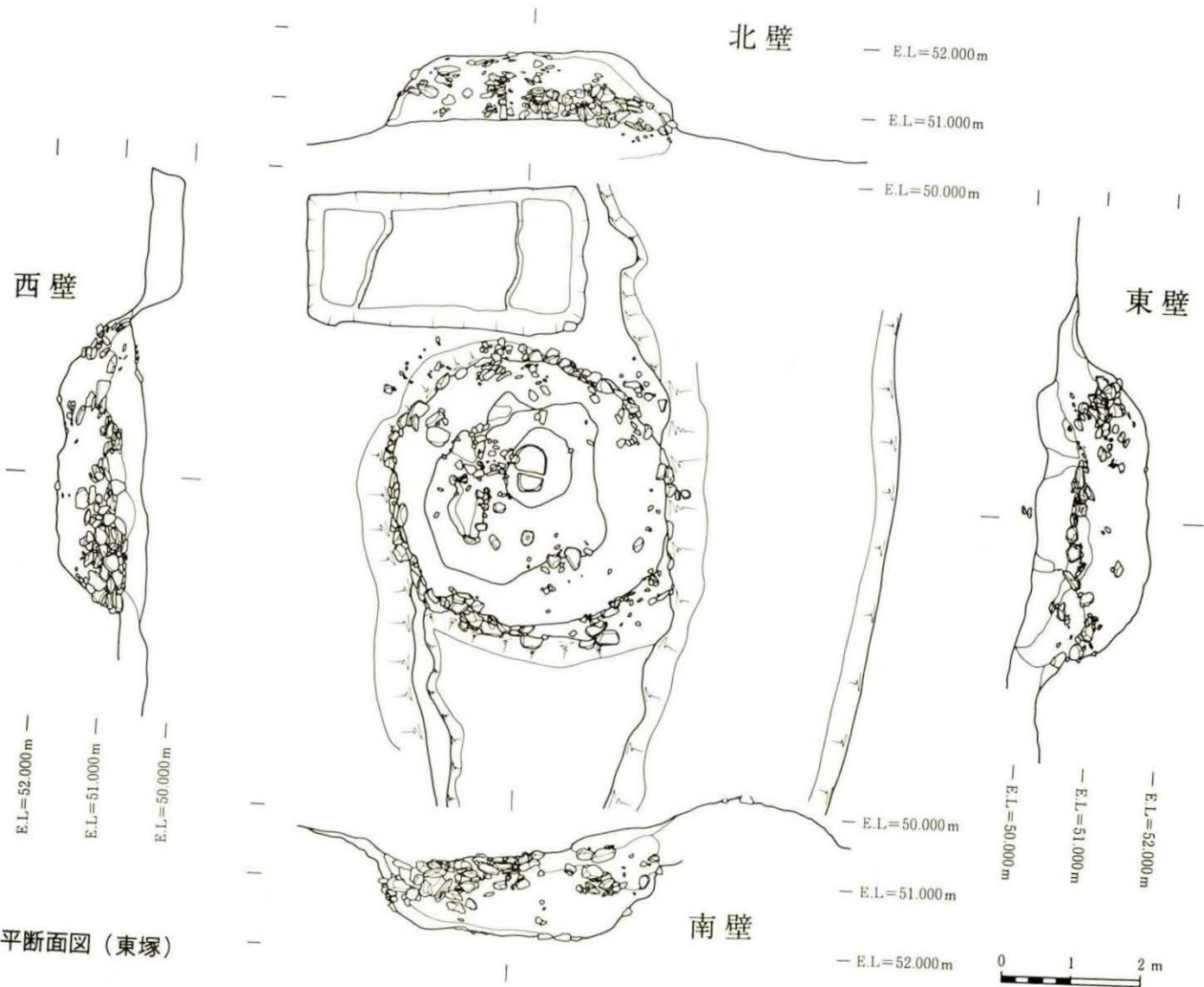
## ② 遺 構

東側にあった「東塚」は、長径4.5m、短径4.0mの楕円状に、約60cmの高さで石積みを巡らし、その石積みを覆うように約1.8mの高さで土を盛った塚であった。塚の東側を馬車道が通っていたため、東壁が一部崩れていた。頂上部分に木株の腐った跡と思われるくぼみがあったが、塚が造られた当時の木株かどうかは確認できなかった。「東塚」と「西塚」の中心を結ぶ線は、東から南へ14°ずれている。



写真2 東塚空撮

図6 平断面図(東塚)



「東塚」から約13mはなれた位置にある塚を「西塚」とした。この塚は「東塚」に比べ崩壊が激しく、盛土を取り除いても楕円状の石積みは確認できなかった。残っていた石積みからはほぼ「東塚」と同じような塚であったことが想像できる。この塚から南側に高さ30cmほどの土手がのびていたが、この付近を畑に使ったときの土手であろうと推察した。

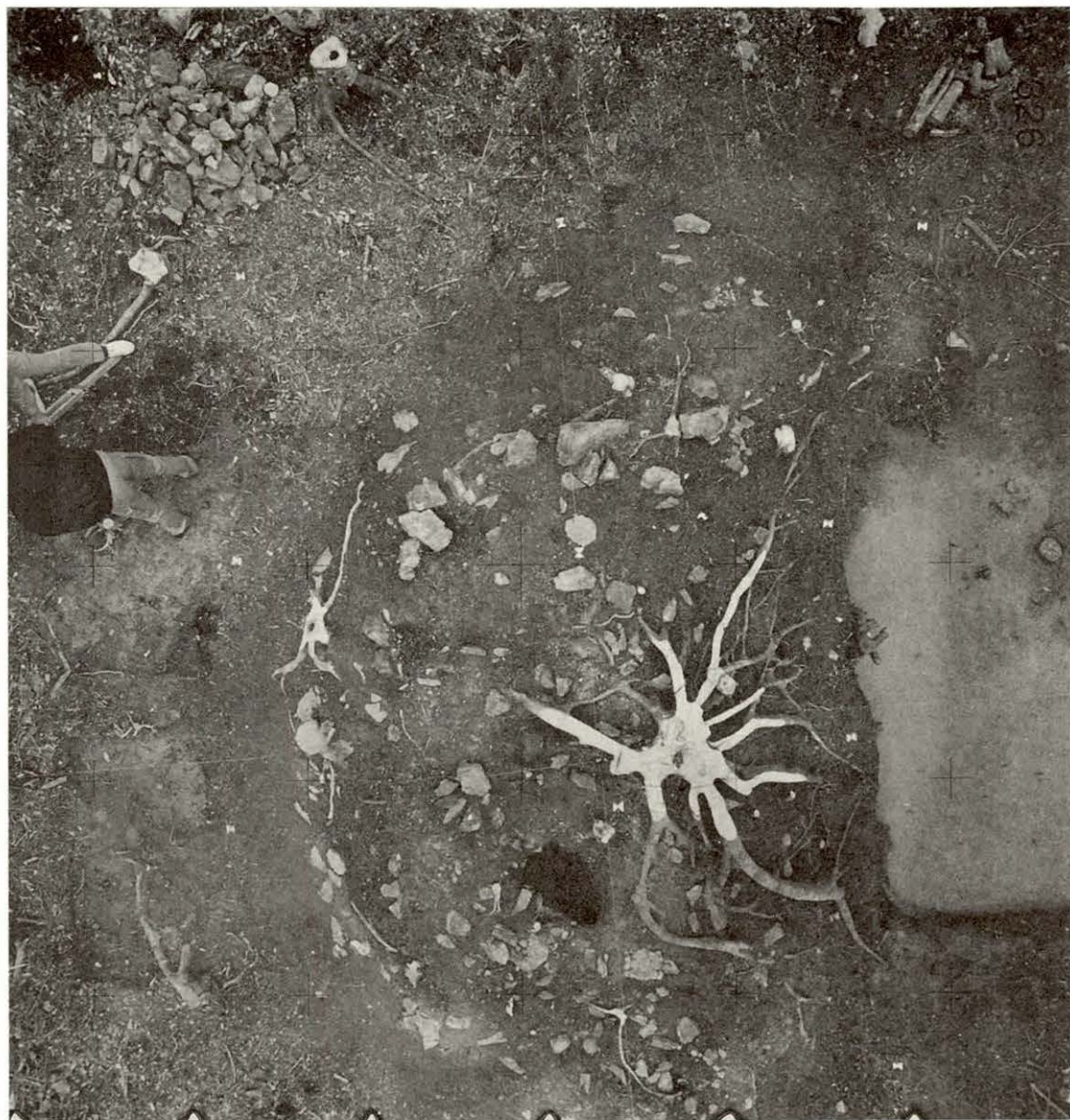
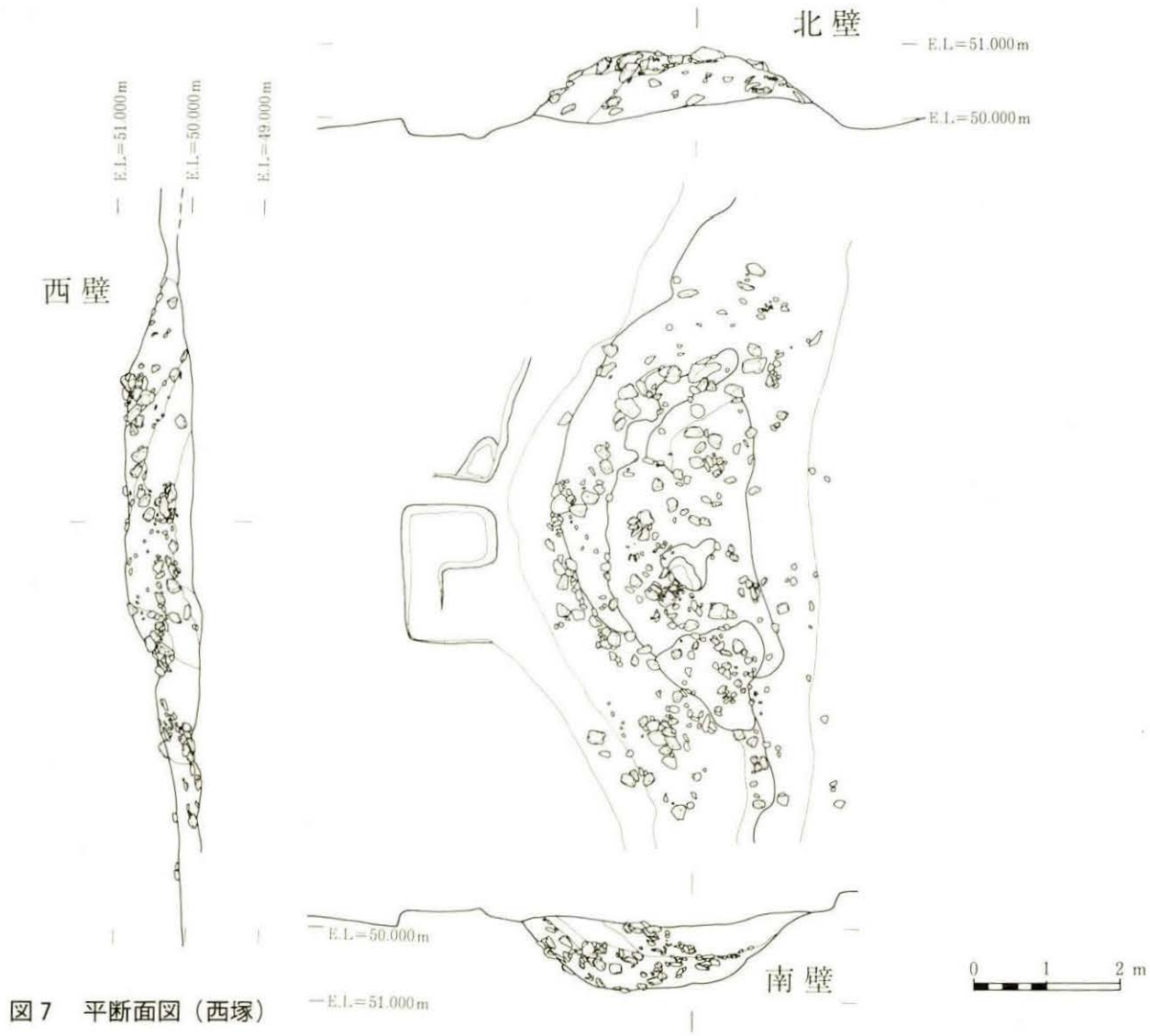


写真3 西塚空撮



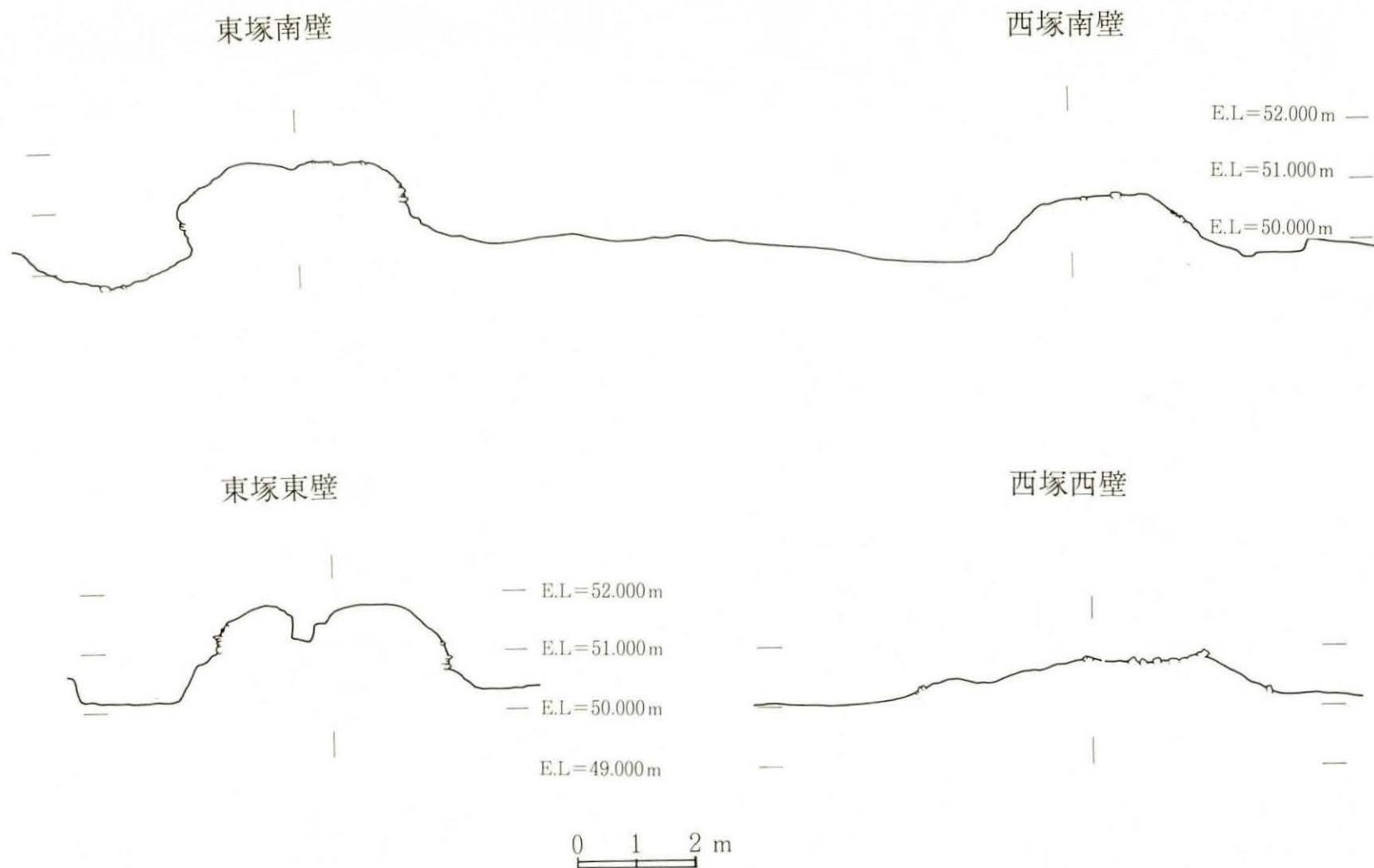


図8 横断面図



写真4 発掘前の現場／東側から一里塚付近を見る。フェンスの手前が基地内であった。20～30年前まで耕地として利用。現状は松林であった。



写真5 伐採後の発掘現場／北側から一里塚を見る。写真の左奥が東塚。右中に西塚が見える。



写真6 東塚雑草除去後の様子／東塚を西側から見る。石積が確認できる。



写真7 東塚断面／東塚を2分の1に割り断面を観察する。周りに石を積み中に土を盛っている。窪みは木かぶが腐食した跡であるが、塚が築かれた当時の木かぶの跡かは不明。



写真8 東塚の石積／石積だけを残し、盛土を除去した状態。塚を西側から見る。



写真9 東塚の石積／石積だけを残し、盛土を除去した状態。塚を東側から見る。



写真10 西塚雑草除去後の様子／かなり崩壊し、かすかに石積が確認できる。



写真11 西塚断面／西塚を2分の1に割り断面を観察する。石積の残りが悪い。



写真12 西塚の石積／石積だけを残し、盛土を除去した状態。塚を南側から見る。



写真13 西塚の石積／石積だけを残し、盛土を除去した状態。塚を北側から見る。



写真14 発掘風景／手前が東塚、奥が西塚。



写真15 写真測量風景／東塚の上で写真測量の準備をする。

### ③ 出土遺物

出土遺物は、人工遺物47点、自然遺物28点と少ない。

人工遺物は、先史時代を示すものは検出されず、近世・近代遺物のみが出土している。内訳は、第1表に示した通りである。

第9図1～4は、壺屋焼の碗で3の内外面及び4の外表面は黒釉がかけられている。同図5～7の3点は、それぞれ文様がちがう砥部焼である。

第10図8・9の資料は皿の底部である。8は畳付まで施釉され、細かい貫入がみられる。9は焼きのよい陶質土器で内外面に煤が付着している。10の小壺は頸部に窯印及び肩部に波状文様が施文されている。11の小壺は内外面ともに黒釉が施されているが、口唇部は無釉である。耳の部分が破損した製品である。12の砥石は小さめの製品だが、表裏面ともよく使用されている。

自然遺物は貝類のみで、獣魚骨は検出されていない。

内訳をみると圧倒的に巻貝が多く23点、二枚貝が5点の総数28点となっている。種類は、チョウセンサザエ8点、マガキ6点、ツノテツレイシガイ・シャコガイ3点、スイジガイ2点、ヤコウガイ・イトマキボラ・サメザラ・シジミガイ科各1点となっている。主に塚の表面及び東塚の中央部に開いた穴から出土した。

表1 出土遺物一覧表

| 出土場所<br>遺物       |    | 東 塚 |        |   | 西 塚 |        | 道<br>表<br>採 | 試 掘     |         |         | 合<br>計 |
|------------------|----|-----|--------|---|-----|--------|-------------|---------|---------|---------|--------|
|                  |    | 表面  | 窪<br>み | 他 | 表面  | 南<br>側 |             | D<br>11 | H<br>10 | K<br>10 |        |
| 壺<br>屋<br>焼      | 口縁 |     |        |   | 1   |        |             |         |         |         | 1      |
|                  | 底部 | 2   |        | 1 | 1   |        |             |         |         |         | 4      |
| 施<br>釉<br>陶<br>器 | 口縁 |     | 1      |   |     | 1      |             |         |         |         | 2      |
|                  | 胴部 | 1   | 1      | 2 | 1   | 1      | 1           |         |         | 1       | 8      |
|                  | 底部 |     |        |   |     | 2      |             |         |         |         | 2      |
| 無<br>釉<br>陶<br>器 | 口縁 |     |        |   |     | 2      |             |         |         | 1       | 3      |
|                  | 胴部 |     | 2      | 3 | 1   | 5      |             |         |         |         | 11     |
|                  | 底部 |     |        | 1 |     | 1      |             |         |         |         | 2      |
| 砥<br>部<br>焼      | 口縁 |     |        |   |     | 1      |             |         | 1       |         | 2      |
|                  | 底部 |     |        |   | 1   |        |             |         |         |         | 1      |
| 陶<br>質<br>土<br>器 | 胴部 | 1   |        |   |     | 2      |             |         |         | 2       | 5      |
|                  | 底部 |     |        |   | 1   |        |             |         |         |         | 1      |
| 現<br>代<br>磁<br>器 | 口縁 |     |        | 1 |     |        |             |         |         |         | 1      |
|                  | 胴部 |     |        |   | 1   |        |             | 1       |         |         | 2      |
|                  | 底部 |     |        | 2 |     |        |             |         |         |         | 2      |
| 合 計              |    | 18  |        |   | 22  |        | 1           | 1       | 1       | 4       | 47     |

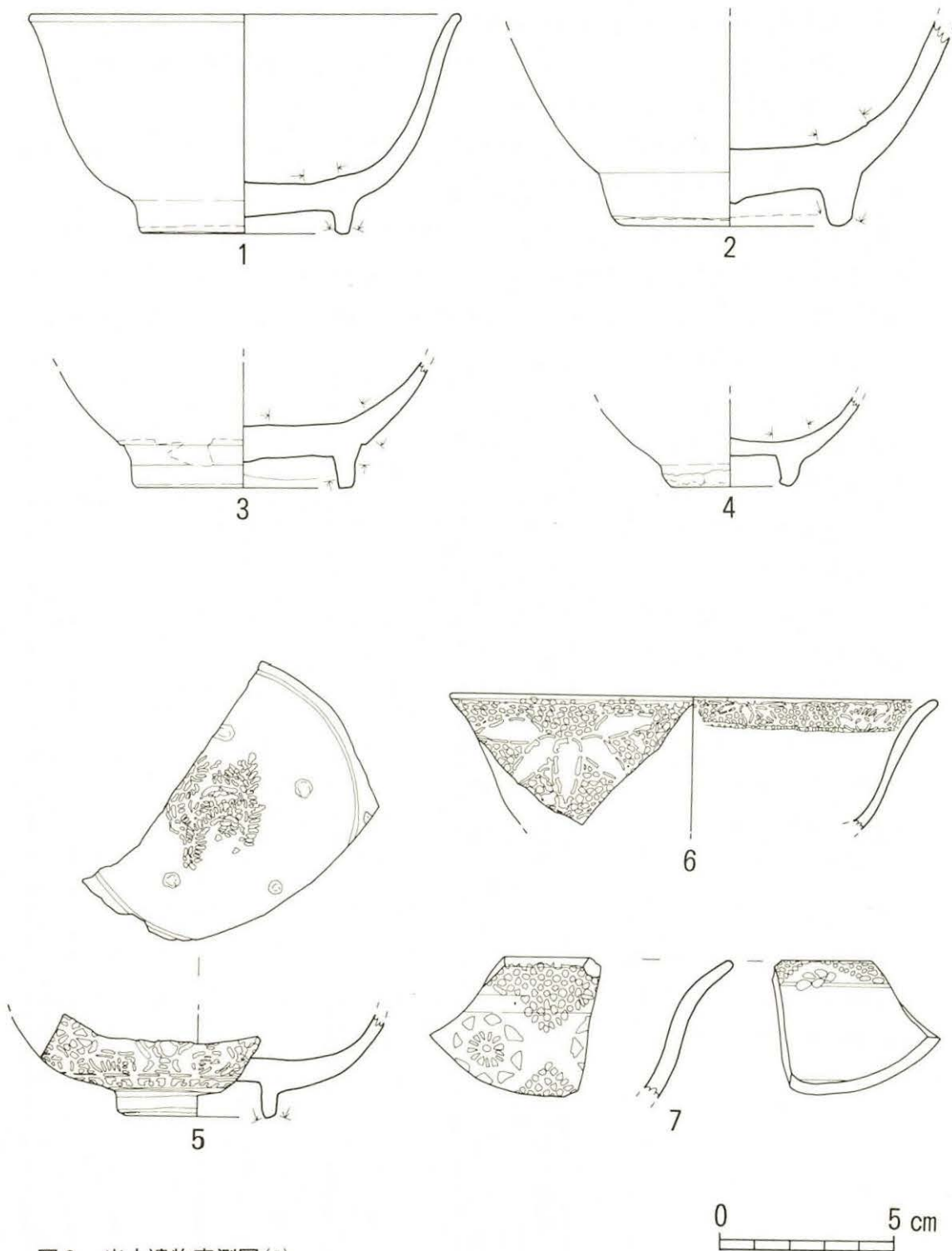


图9 出土遺物実測図(1)

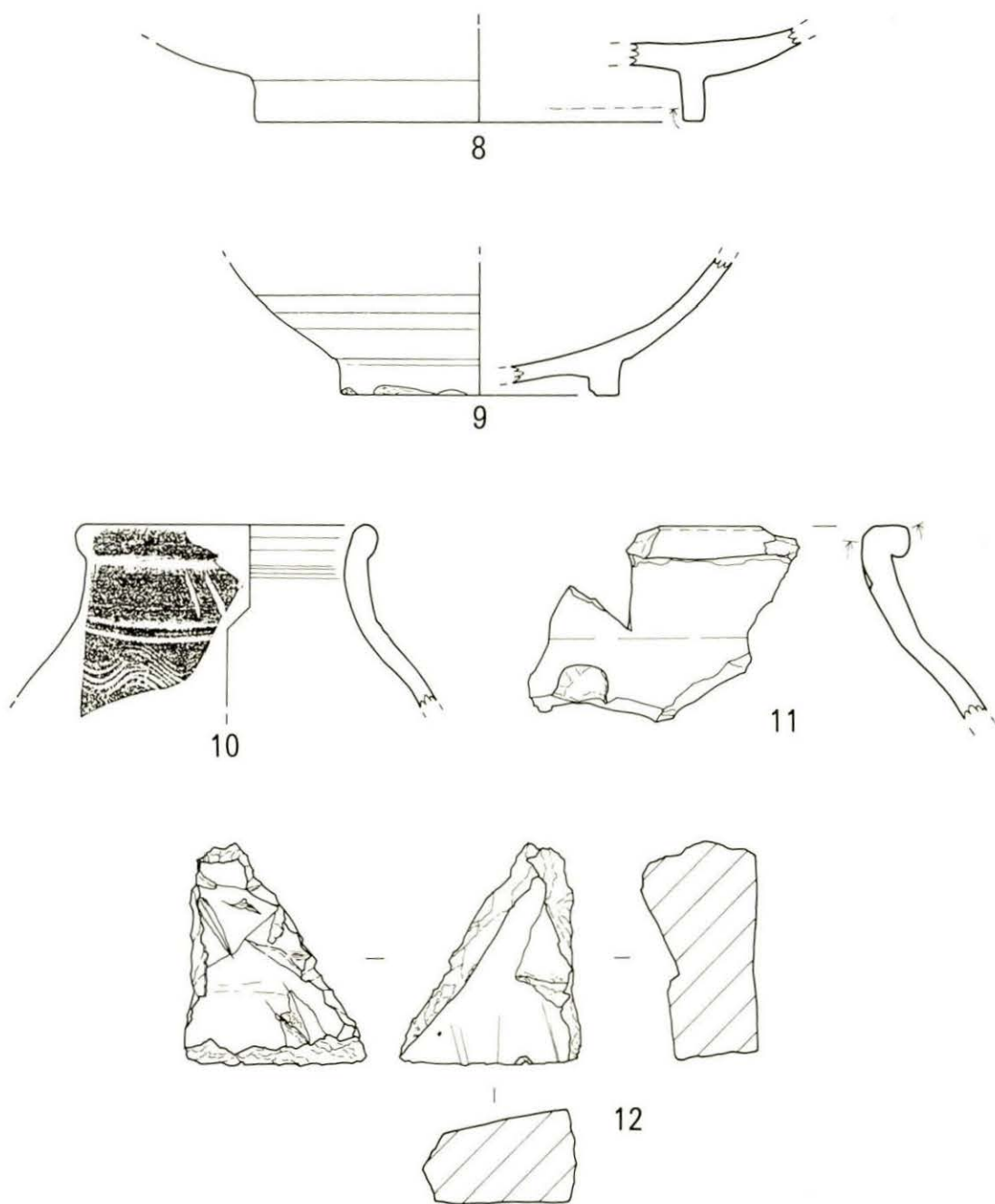


図10 出土遺物実測図(2)

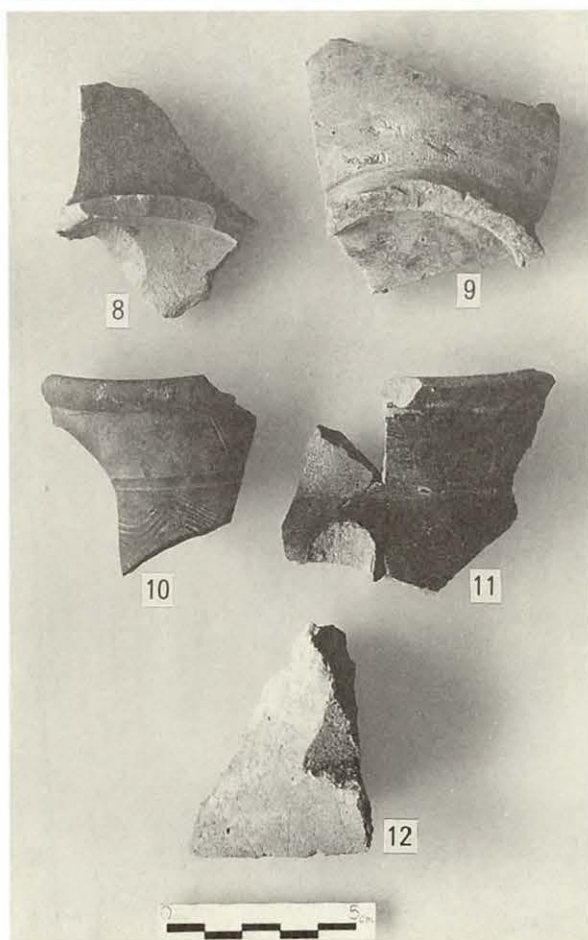
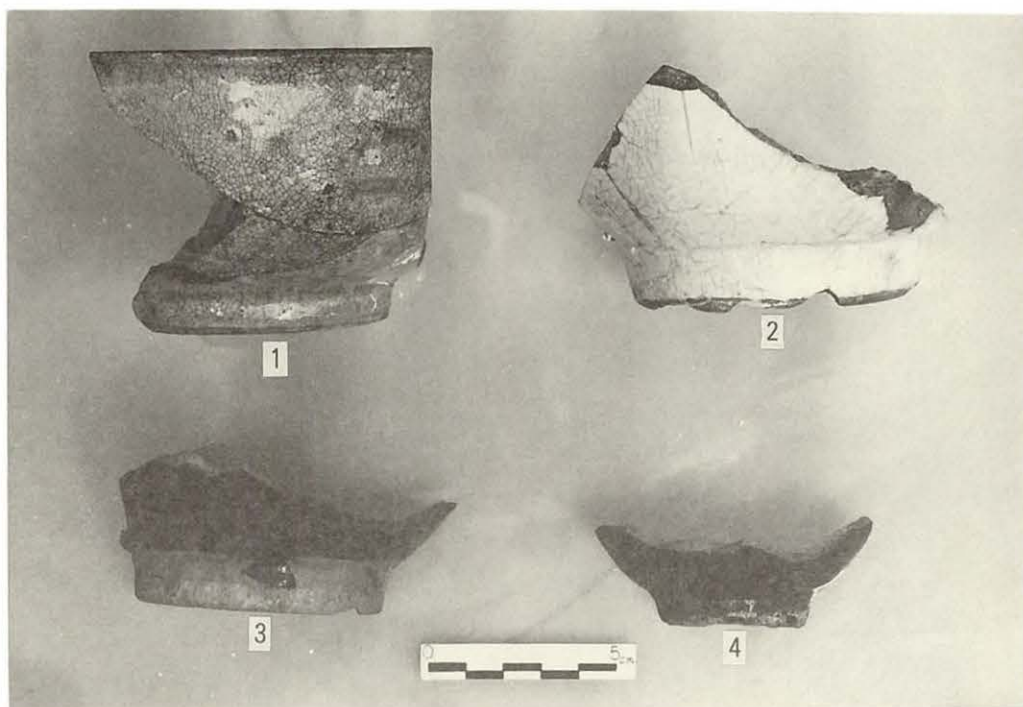


写真16 出土遺物 (1)

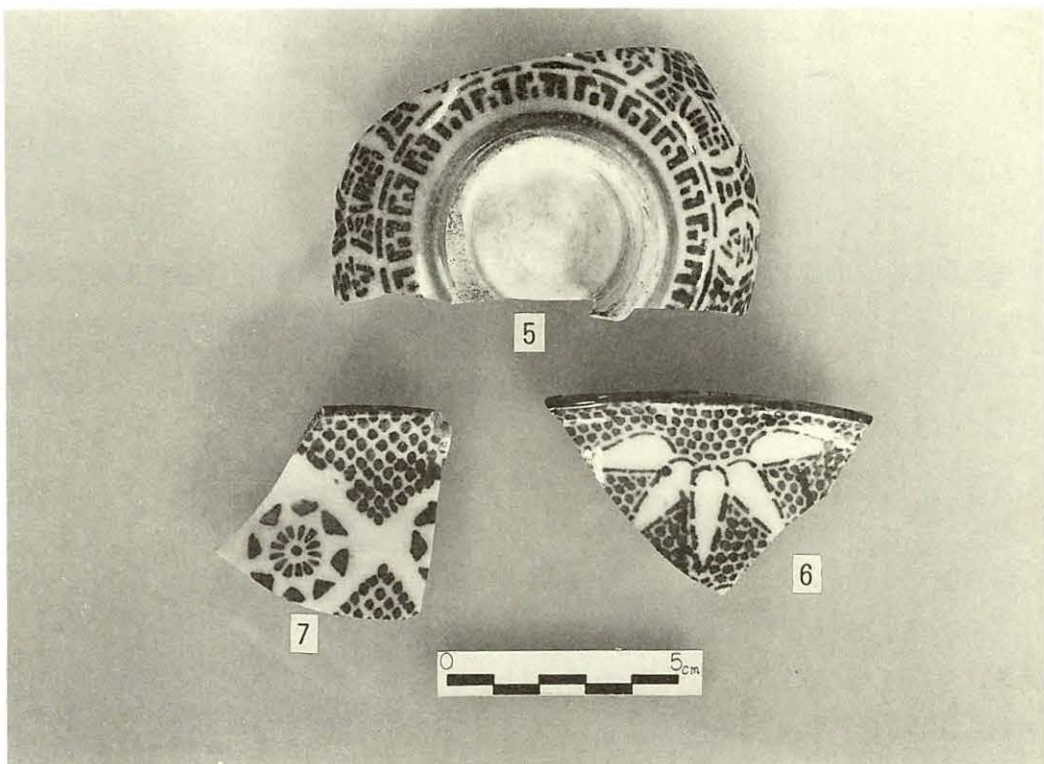


表 面

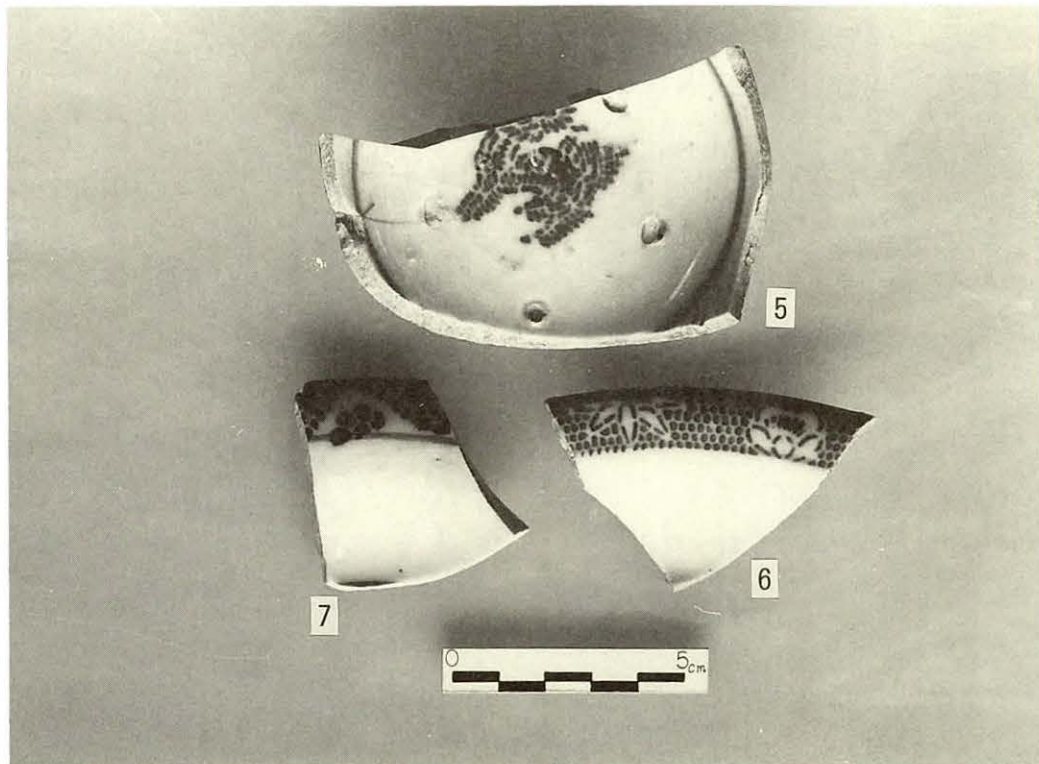


写真17 出土遺物 (2)

裏 面

## 第2章 史(資)料に見る一里塚

### 1. 『正保三丙戌年絵図帳写』に見る一里塚(山)

沖縄県立図書館比嘉春潮文庫に所蔵される『正保三丙戌年絵図帳写』(1646年)には、沖縄島をはじめ各島々の南北の長さや東西の長さ、人居の有無、航路などが記されている他、道筋を記し、例えば「西原間切堺より浦添間切之内ゑそ村壺里山迄十壺町」のように距離を示して「一里塚(山)」の記載を見ることができる。『琉球国絵図史料集』(沖縄県教育委員会)を参照し、そこに記載されている「一里塚(山)」を抜き出してみた。

#### ① 西海道

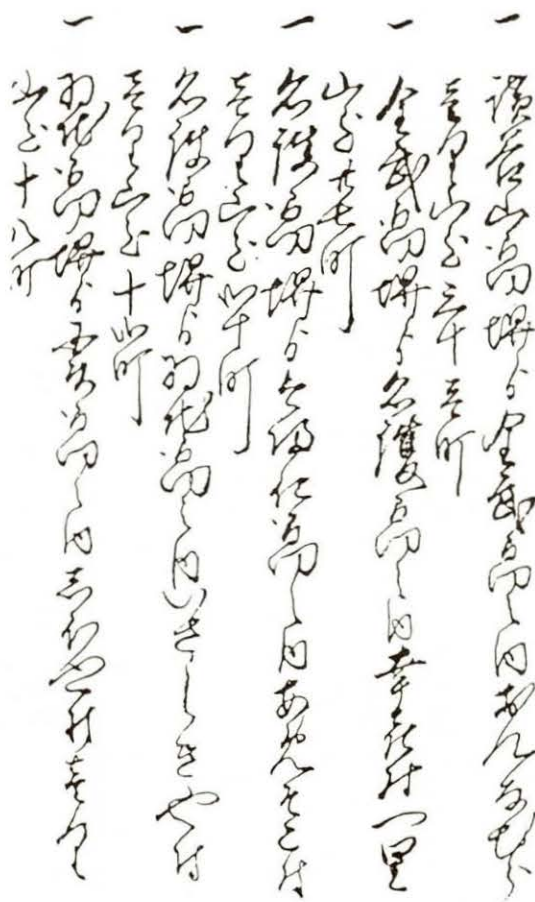
「浦添間切之内ゑそ村壺里山」「北谷間切之内くわい村壺里山」「讀谷山間切之内ゑらみな村壺里山」「金武間切之内おんなむら壺里山」「名護間切之内幸喜村一里山」「今帰仁間切之内あめそこ村壺里山」「羽地間切之内いさしきや村壺里山」「国頭間切之内しほや村壺里山」「羽地間切之内こかち村一里山」

#### ② 島尻方西海道

「那覇一里山」「兼城間切之内むくえ川一里山」「喜屋武間切さかい壺里山」

#### ③ 東海道

「中城間切之内安里村壺里山」「越来間切之内大里(美里カ)村一里山」「越来間切之内おんな村壺里山」「金武間切之内やか村一里山」「名護間切之内大浦村壺里山」



#### ④ 島尻方東海道

「大里間切之内よなはる村壺里山」「佐敷間切之内佐敷村壺里山」「知念間切之内知念村一里山」

#### ⑤ 久米島

「具志川間切之内よくひ處一里山」

## 2. 「琉球国絵図」に見る一里塚

「琉球国絵図」に黒丸印で一里塚（山）が記されているが、その場所を現在の地図に照らし合わせ、その地名を抜き出してみた。ただし、縮尺および当時の道との違い等があり、正確な場所とはいえない。沖縄本島のみ。

### ① 西海道

首里城 → 仲間 → 大山 → 桑江 → 嘉手納 → 伊良皆 → 真栄田 → 仲泊 → 谷茶 → 南恩納

→ 安富祖 → 名嘉真 → 幸喜 → 許田 → 名護 → 為又 → 伊豆味 → 並里 → 渡久地 → 謝花

→ 越地 → 仲宗根 → 天底 → 呉我 → 真喜屋 → 源河 → 津波 → 塩屋 → 大宜味 → 喜如嘉

→ 辺土名 → 与那 → 辺野喜 → 宇嘉 → 宜名真 → 辺戸 → 奥 → 楚洲 → 伊部 → 安田 → 安波

### ② 島尻海道

首里城 → 久米 → 豊見城 → 糸満 → 喜屋武 → 米須 → 玻名城 → 當山 → 知念 → 海野

← 津嘉山 ← 東風平 ← 大里

← 与那原 ← 佐敷

④ 東海道

首里城 → 津花波 → 安里 → 熱田 → 高原 → 知花 → 栄野比 → 屋嘉 → 伊芸 → 金武 → 漢那

→ 塩屋 → 平安名

→ 久志 → 辺野古 → 大浦 → 三原 → 嘉陽 → 底仁屋 → 慶佐次



図11 「琉球国絵図」に見る一里塚

3. 『沖縄県歴史の道調査報告書』に見る一里塚

沖縄県教育委員会では、昭和59年度（1984年）から「歴史の道」の調査を行い、これまでに数冊の報告書を作成している。その中に「一里塚」に関する記載があったので抜き出してみた。参照した報告書の順に、その中に報告のあった一里塚の名称・所在・説明を記載する。ただし、報告書名の「沖縄県歴史の道調査報告書」の部分を省き、サブタイトルと発行年月を記載する。

① 「国頭・中頭方西海道（Ⅰ）・弁ヶ嶽参詣道」（1985年 3 月）

| 名称（別名） | 所 在          | 説 明   |
|--------|--------------|---|
| 一 里 毛  | 浦 添 市<br>仲 間 | 名称以外何も伝承されていない。一里バンタという崖が残っている（P. 31）。戦前は松林があり若者が集まる場所（P. 64）。首里から里程一里（P. 138）。 |
| 大山の一里塚 | 宜野湾市<br>大 山  | 大山小学校正門近く国道58号線の真ん中あたりにあった。一里原という地名だけが残る（P. 64／139）。                            |
| 桑江の一里塚 | 北 谷 町<br>桑 江 | 集落入口にあたる屋敷の角に建って石を一里塚と呼んでいた。塚はなかった。現在はない（P. 64）。                                |
| 野国の一里塚 | 嘉手納町<br>野 国  | 野国村入口、屋号「東大工」という屋敷の隅にあり、小高い所に石が置かれ一里塚と呼ばれていた。現在は米軍基地内で跡形もない（P. 65）              |

② 「国頭・中頭方西海道（Ⅱ）」（1986年 3 月）

| 名称（別名） | 所 在            | 説 明  |
|--------|----------------|--|
| 一 里 塚  | 恩 納 村<br>真 栄 田 | 農道の両脇に所在する。東側は底面径 3 m の人工塚で、西側は自然の礫層の岡を利用したもの（P. 159）。村指定の文化財。 |
|        |                |  |

|           |                |  |
|-----------|----------------|--|
| 一 里 塚     | 恩 納 村<br>仲 泊   | 自然の丘を利用した塚。現在2カ所に残る (P. 160)。  |
| 一 里 塚 跡   | 恩 納 村<br>谷 茶   | 谷茶大口といわれるリーフの割れ目を通った津口 (港) 付近にあったというが、現在はない (P. 160)。                              |
| 一 里 塚 跡   | 恩 納 村<br>南 恩 納 | 恩納の集落の南側にあった馬場の南側の道の両側にあった塚。樹木はなく茅草であった。戦後道路拡張のため破壊された (P. 31)。                    |
| 一 里 塚 跡   | 恩 納 村<br>安 富 祖 | 瀬良垣との境にあったというが詳細は不明 (P. 160)。  |
| 一 里 塚 跡   | 恩 納 村<br>名 嘉 真 | 国道58号線沿い浜原、名護向け右側だけにあった。楕円状。高さ約3 m、長さ約7～9 m、幅約3.6 m。樹木はなく茅草であった。道路拡張工事で消失 (P. 31)。 |
| 幸喜の一里塚    | 名 護 市<br>幸 喜   | 一里塚があったというが、位置は不明 (P. 31)。   |
| 許田の一里塚    | 名 護 市<br>許 田   | 許田と数久田の間にあった珊瑚礁の岩をさし、形がカメの首に似ていることからハーミヌクビリと呼ばれていた。道路拡張工事で埋められた (P. 31)。           |
| 一 里 標 識 柱 | 名 護 市<br>為 又   | 為又159番地、比嘉松吉氏宅の門口にあった。伊豆味に向かう道路の右側に位置する (P. 87/161)。                               |
| 一 里 標 識 柱 | 本 部 町<br>伊 豆 味 | 伊豆味2678番地、比嘉亀徳氏宅の門口にあった。渡久地に向かう道路の左側に位置する。イヤガイの一塚と呼ばれていた (P. 88/161)。              |
|           |                |  |

|       |            |   |
|-------|------------|---|
| 一里標識柱 | 本部町<br>並里  | 並里東屋名座の我那覇隆金氏宅の上方の道路左側にあったという。未確認 (P. 88/161)。                        |
| 一里標識柱 | 本部町<br>渡久地 | 渡久地大多良の本部町花卉生産組合出荷場近く、道路右側にあった。イチリシグワー（一里石小）と呼ばれていた。行方不明 (P. 88/162)。 |
| 一里境   | 本部町<br>謝花  | 謝花中袋原に現存する。与那覇清吉さんによると「イチチザケー」と呼ばれているという (P. 88/162)。                 |
| (一里塚) | 国頭村<br>奥間  | 上島川沿いのホテル宮城の東側に「ターチマチ（二本松）」がある。国絵図の位置と一致するので一里塚と考えられる (P. 70)。        |

### ③ 「島尻方諸海道」(1987年3月)

| 名称(別名) | 所在         | 説明   |
|--------|------------|--|
| (一里塚)  | 佐敷町<br>佐敷  | 島宜原。闘牛場角の小高くなった所に一本の松が生えており、一里塚と思われるが未確認 (P. 81)。                              |
| (一里塚)  | 佐敷町<br>仲伊保 | 古島原。仲伊保と外間を結ぶ農道脇に1 m位土を盛り上げ、その上に長方形に石が置かれた所があった。古老が「一里塚」だと言っていた。現存しない (P. 81)。 |
| 一里     | 糸満市<br>阿波根 | 豊見城村字保栄茂と糸満市字阿波根を結ぶ農道の中程の市村境に道を挟むように塚があり、そこを俗にイチリと呼んでいる。現在は東側の塚だけ残る (P. 50)。   |

④ 「中頭方東海道」(1988年3月)

| 名称(別名)    | 所 在            | 説 明  |
|-----------|----------------|--|
| 津花波一里塚    | 西 原 町<br>津 花 波 | 形状はよくわかっていないが、モモタマノの木が一本生え、塚は築かれてなかったという(P.22)。残念ながら根拠となる遺構はない(P.145)。 |
| 坂田の一里毛跡   | 西 原 町<br>翁 長   | 首里城から幸地番所・幸地グスクを経て中城城へ向かう途中にあったと推定され、現在の坂田小学校東北のユックイビラの南側に位置する(P.145)。 |
| (平安名の一里塚) | 勝 連 町<br>平 安 名 | 平安名の勝連小学校の前にあったという。勝連小学校校門前にある内間ハウヤーギーがそれにあたると推測される(P.66)。             |
| 大田の一里毛跡   | 具志川市<br>川 田    | 具志川番所から一里を示す毛で、昭和初期まで確認できたが、現在はその形をとどめない。古老から聞き取りで位置のみ確認(P.148)。       |

⑤ 「国頭方東海道・他」(1989年3月)

| 名称(別名)   | 所 在          | 説 明   |
|----------|--------------|---|
| (屋嘉の一里塚) | 金 武 町<br>屋 嘉 | 『石川市誌』の「カーラン川」の説明に「石川、屋嘉間を流れ、谷間には石積みの境界指標がある」とあり、これが一里塚ではないかと推測される(P.16)。 |
| 金武の一里毛跡  | 金 武 町<br>金 武 | 金武馬場の端に金武の一里塚のマウンドがあったが、今は宅地となっている(金武4562番地仲間氏宅)(P.19/107)。               |

|         |                |   |
|---------|----------------|---|
| 辺野古の一里塚 | 名 護 市<br>辺 野 古 | 米軍基地のフェンスのすぐ側に土を盛った石囲いの塚が残っている。地元ではこの「イキリヅカ」が村の出入口にあたり出征兵士も見送った場所だという（P. 54）。最近確認された良好な形で残る一里塚（P. 110）。 |
| （一里塚跡）  | 東 村<br>慶 佐 次   | 慶佐次に入るあたりに一里山があったと思われるが、現在パイン畑で確認できなかった（P. 63）。   |



写真18 恩納村真栄田の一里塚

## 4. 国指定の一里塚

江戸幕府によって制度化され、全国に設置されたといわれる「一里塚」が、現在どれくらい保存されているのだろうか。それを知るには全都道府県および市町村の文化財一覧等入手する必要があるが、今はそれが不可能に近いので、国の史跡に指定されている「一里塚」がどのくらいあるのかを調べた。参考にしたのは、『図説・日本の史跡・第七巻・近世近代・1』（文化庁文化財保護部史跡研究会編・1991年5月20日・株式会社同朋舎出版）で、福島県、栃木県、東京都、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、和歌山県、島根県、岡山県、宮崎県に、全部で17の一里塚が国の史跡に指定されていることがわかった。以下、上記の書を参照し、それぞれの概要を記した。

### ① 須賀川一里塚（すかがわいちりづか）

所在地／福島県須賀川市一里坦（JR東北本線須賀川駅から車で10分）

指定日／昭和11年9月3日（追加・解除：昭和59年3月27日）

説 明／江戸時代に奥州道中の須賀川宿の南端に築かれた一里塚。二基相對して塚形がよく保存されている。この一里塚は江戸日本橋から数えて59番目。東側の一里塚は底径約12メートル、高さ約3メートル、西側の塚は底径14メートル、高さ約3.6メートルである。塚の表面は芝草。後世に補植されたサクラがある。

### ② 小金井一里塚（こがねいいちりづか）

所在地／栃木県下都賀郡国分寺町小金井字結城道（JR宇都宮線小金井駅徒歩10分）

指定日／大正11年3月8日

説 明／日光街道の日本橋から22里目の一里塚。両側の塚とも残存し、高さ2.7mの円形状で、西側の塚にはエノキ、東側の塚には雑木が植えられている。『日光山道中絵図』に小金井一里塚が描かれていて、当時の様子がうかがえる。両塚の距離は、幅2mの旧道をはさんで約12mである。

### ③ 壬生一里塚（みぶいいちりづか）

所在地／栃木県下都賀郡壬生町大字壬生花の木乙（東武宇都宮線壬生駅徒歩10分）

指定日／昭和3年3月24日

説 明／日光西街道、別名日光道中壬生通りに設置された一里塚。現在では壬生町中心部の南端、東武宇都宮線の踏切の南方に所在する。当時でいえば江戸日本橋から23里の地点。塚は街道の両側に約18m離れて築かれていたが、今は西側の塚のみが

残る。塚は直径約5 m、高さ約2 m。記録に塚の上にエノキが生えていたという。

④ 西ヶ原一里塚（にしがはらいちりづか）

所在地／東京都北区西ヶ原二丁目（JR京浜東北線上中里駅or王子駅から徒歩10分）

指定日／大正11年3月8日

説明／将軍が日光東照宮に社参する際の専用街道として使用していた日光御成道の本郷追分の次の一里塚。武蔵野台地の東端部にある。都内では唯一旧位置に保存され、街道をはさんで一对の塚が現存する。大正時代、市電路線延長に伴う道路工事のため撤去されそうになったが、地元住民の保存運動によって保存に成功。その意義を含め、いちやく指定された。

⑤ 志村一里塚（しむらいちりづか）

所在地／東京都板橋区志村小豆沢（都営地下鉄三田線志村坂上駅出口）

指定日／大正11年3月8日（追加・解除：昭和10年10月18日）

説明／都心から北西に延びる国道17号線沿いにエノキの植えられた塚が道路をはさむように対になっている。当時の原形をよくとどめている。江戸日本橋を発つ中山道の3里目の一里塚。指定直後の南側の塚の高さは約3 m、面積が約87.8㎡。北側の塚の高さは約3 m、面積約112.2㎡。地元町内会などで保護管理している。

⑥ 垂井一里塚（たるいいちりづか）

所在地／岐阜県不破郡垂井町日守（JR東海道本線垂井駅から車で約10分）

指定日／昭和5年5月10日

説明／岐阜県の西端に近い垂井町の西部にあり、江戸日本橋を発する中山道112番目の一里塚。現在、南側の塚だけが残し、塚上にヤマザクラの大木とマツの小木が生えている。近くに、関ヶ原山中から明治初年に移築されたという茶所や松並木が残る。

⑦ 錦田一里塚（にしきだいちりづか）

所在地／静岡県三島市谷田（JR東海道本線三島駅からバス初音入口下車徒歩5分）

指定日／大正11年3月8日

説明／三島市街地の東側に延びた箱根山の西山麓の初音ヶ原あるいは谷田原と呼ばれる幅の広い尾根の中央部、標高105mにある。江戸日本橋から発する東海道の28里目の一里塚。二つの塚が一对で残り、間を国道1号線が貫通している。両塚とも

直径が約10m、高さは約3m。塚中央部にエノキが植えられている。松並木の中に存在し旧街道の情景をうかがわせている。

⑧ 阿野一里塚（あのいちりづか）

所在地／愛知県豊明市阿野町（名古屋鉄道名古屋本線前後駅から徒歩10分）

指定日／昭和11年12月16日

説 明／東海道の池鯉鮒宿と鳴海宿の間に位置し、両塚が残る。北側の塚は、高さ2.5m、基部の南北が5m、東西が9m。南側の塚は高さ2m、基部の長さ南北・東西とも8m。北側の塚に松が二本生えている。南側の塚には「是より沓掛道」と刻まれた道標が建っている。

⑨ 富田一里塚（とみたいちりづか）

所在地／愛知県尾西市富田町（JR東海道本線尾張一宮駅から車で15分）

指定日／昭和12年12月21日

説 明／東海道と中山道を結び濃尾平野を縦断する美濃路の荻原宿と起宿の間に位置し、美濃路では唯一両塚が残る。規模は、南北の塚とも高さ2m弱、基部の長い所で約9mあり、エノキが植えられている。塚から美濃路を西に約1.3km行くと起宿の渡船場跡（県史跡）がある。

⑩ 大平一里塚（おおひらいちりづか）

所在地／愛知県岡崎市大平町（名古屋鉄道名古屋本線乙川駅から徒歩10分）

指定日／昭和12年12月21日

説 明／東海道の藤川宿と岡崎宿の間に位置し、愛知県内の東海道に残る数少ない一里塚の一つ。昭和3年の道路拡張工事により北側の塚は消滅した。南側の塚の高さは約2.5m、基部の南北7.5m、東西8.5mで、塚上にエノキが植えられている。

⑪ 野村一里塚（のむらいちりづか）

所在地／三重県亀山市野村町字野村（JR関西本線亀山駅から車で5分）

指定日／昭和9年1月22日

説 明／東海道の一里塚の一つ。亀山城の西方、亀山市野村の西外れにある。道の北側の塚だけが残し、塚上にムクの大木が生える。寛政年間の記録に「左榎、右棕」とあり、文化年間の絵図に街道の両側に一里塚が描かれている。現在残る北側の塚の高さは約3m、直径約5mある。

⑫ 四箇郷一里塚（しかごういちりづか）

所在地／和歌山県和歌山市新在家（JR阪和線和歌山駅から車で10分）

指定日／昭和15年7月12日

説 明／和歌山藩が設けた一里塚で、大和街道と大坂街道にかかわり、城下の起点から一里の地点にある。南北に塚が残り、両塚とも約70m<sup>2</sup>、高さ1.5mの楕円状を呈している。塚上にクロマツが植えられている。

⑬ 安来一里塚（やすぎいちりづか）

所在地／島根県安来市安来町字川子（JR山陰本線安来駅から車で6分）

指定日／昭和11年12月16日

説 明／江戸時代に松江藩の中心であった松江から東側に残る唯一の一里塚。安来市街地の西端、旧国道の安来大橋の東側に位置する。塚は道をはさんで相對し、南塚は直径約4.2m、高さ1.2m、北塚は直径約6m、高さ1.5mあり、両塚にマツが植えられていたという。

⑭ 伊志見一里塚（いじみいちりづか）

所在地／島根県八束郡宍道町大字伊志見字灘（JR山陰本線宍道駅から車で7分）

指定日／昭和12年6月15日

説 明／松江藩の一里塚で、松江を起点に長門街道を西へ五里の地点にある。幅4mの街道の南北に塚があり、南塚は径7.5～10.5m、高さ1.5m、北塚は径8～11m、高さ2.1mである。指定当時には両塚に松の大木があったが落雷や風雪に侵され、切り倒された。

⑮ 出西・伊波野一里塚（しゅっさい いわのいちりづか）

所在地／島根県簸川郡斐川町大字神氷（JR山陰本線直江駅から車で3分）

指定日／昭和12年6月15日

説 明／松江以西にある松江藩の一里塚の一つ。直江駅から約700m離れた水田の中にある。塚は道をはさんで東西に相對し、国有地と町有地からなる。二つの塚を合わせて127m<sup>2</sup>。塚に植えられていた松は、台風や病害虫の被害などで枯れた。

⑯ 真金一里塚（まがねいちりづか）

所在地／岡山県岡山市吉備津（JR吉備線吉備津駅から徒歩5分）

指定日／昭和3年3月24日

説 明／山陽道板倉宿の東端に設けられた一里塚で、備前・備中の国境に位置し、それぞれ備前・備中に入ることを知らせた。指定後まもない頃に撮影された写真によると、塚の径は約3 m、高さは1 mを越え、南塚にエノキ、北塚にクロマツが生えていたことがわかる。

⑰ 今町一里塚（いままちいちりづか）

所在地／宮崎県都城市今町・梅北町（JR日豊本線都城駅から車で15分）

指定日／昭和10年12月24日（追加：昭和48年7月21日）

説 明／都城から鹿屋に延びる国道269号線沿いの鹿児島県境近くに位置している。今町街道は旧都城下から今町を通り、末吉を経て志布志街道と連結する。この塚は、天保9年の図に「三拾三里塚」と記されている。19世紀初頭の庄内地理誌にも記載されていることから18世紀後半に築かれたと考えられている。

## 5. 県外の調査から（県・市町村指定の一里塚）

一里塚の制度はその起源を中国にもち、日本の国では織田信長・豊臣秀吉が築き始めたと言われているが、制度として確立されたのは江戸時代に入ってからのこと。慶長九年（1604年）、徳川家康が秀忠に命じて、江戸日本橋を起点として、東海道・東山道・北陸道に「榎」を植えた一里塚を築かせ全国に普及したという。

今回は、福井県と三重県を訪ねる機会があったので、そこで、一里塚の保存状況や保存をめぐる様々な問題などを取材した。福井県では金津町、三重県では熊野市を主な調査地とし、両教育委員会並びに関係者の方々にはたいへんお世話になった。

### ① 旧北陸街道（福井県）の一里塚

福井県の金津町に福井県指定の一里塚があることを聞き、金津町教育委員会を訪ね、その場所に案内してもらった。

一里塚の名称は「千束一里塚」。「福井県板井郡金津町北金津町20字一里塚71」にあった。この一里塚は金津町千束の集落の南にあり、旧北陸街道をはさんで両脇に築かれたもので、『越前国名蹟考』に「北金津町 往還一里塚 右野の辺道の左右にあり。東に榎二本、西に一本。上は下関村、下は細呂木の南西の間、元禄の図に金津橋より一里塚迄九町」の記載があるという。道の両脇にあったはずの塚のうち、東側の塚が昭和24年（1949年）に壊され、現在は、五間四方（約9 m四方）の西側の塚が残り、塚の上に幹廻り3.55 mの大きな榎の木が立っている。

金津町では、昭和48年（1973年）に文化財に指定してその塚の保存に努め、平成2年（1990年）には、福井県を通る旧北陸街道の一里塚のうち、当時の姿を良く残しているのはこの塚だけで、極めて貴重な遺跡であるとして、福井県の史跡に指定された。千束で川野造園を経営する川野寿明さんは特にこの一里塚の保存に力を注いでいて、自ら各地の一里塚の調査におもむくほど。地域の文化財を大切にする熱い思いを感じた。現在、この一里塚は金津町が所有し、管理は金津町教育委員会が行なっている。



写真19 福井県金津町千束の一里塚

## ② 旧熊野街道（三重県）の一里塚

三重県熊野市で「二木島の一里塚跡」「有馬一里塚跡」、御浜町では「市木一里塚」を、熊野市文化財保存審議委員の福島清さんの案内で訪ねることができた。

「二木島の一里塚跡」は、「三重県熊野市二木島町553」にあり、昭和12年12月20日に三重県の文化財（史跡）に指定されている。古くから風待港として重要視されてきた二木島湾の奥に位置する二木島町の背後には険しい山々がせまり、そこに「旧熊野街道」が通る。一里塚は斜面を登る「街道」のすぐ側にあった。「以前は大きな松や杉が生えていた」というが、今は「雑木の小さな森」となり、本来の姿を想像することはできない。眼下に二木島駅、二木島湾が見えた。

旧熊野街道を南に下って、有馬町にある「有馬一里塚跡」を訪ねた。「有馬町有馬松原字丁塚の保安林内」に位置し、熊野市の文化財に指定されている。すぐ横を走る国道42号線と「七里御浜」の間にあり「南の塚」だけが現存する。「北の塚」は、昭和37年の国道改修工事の際取り壊されたという。「南の塚」は径約7.3m、最高所約1.7m。塚の上に松・イヌグス・桜などが生えている。

さらに「街道」を下り、御浜町の「市木の一里塚」を訪ねた。「有馬一里塚」から40町4間の距離だという。塚は、国道改修工事で完全に取り壊されたため、道路脇に塚を築き、「市木の一里塚」と名称を記した碑が建っていた。



写真20 三重県熊野市二木島の一里塚



写真21 三重県熊野市有馬の一里塚

## 6. 全国の地名に残る「一里塚」

全国の街道沿いに設置されていったという「一里塚」は、近年の道路整備等に伴い、多くが姿を消しているといわれるが、どのくらいの一里塚が残っているのかは把握できない。そこで、地名の中に「一里塚」に関するものが残っていないかを調べてみた。参照したのは、『新日本地名索引第一巻』（1993年10月28日・編者金井弘夫・アボック社出版局）と、現在は消えた地名を収集した『新日本地名索引別巻地名レッドデータブック』（1994年12月10日・編者金井弘夫・アボック社出版局）である。ただし、地図上に現れた、あるいは現れていた地名のみで、例えば辺野古の一里塚の地点に残っていた「イキリヅカ」というような小地名を拾うことはできない。

それによると、北海道から鹿児島県までの33道府県に、「一里・壹里・一里川・一里木・一里木松・一里小屋・一里小屋池・一里坂・一里崎・一里沢・一里島・一里塚・一里塚町・壱里塚・一里滝沢・一里壇・一里段・一里坦・一里野・一里松・一里山・一里山町・壱里山町・一里山峠」の地名があることがわかった。

以下、その地名と所在地を表にまとめてみた。

### ●「一里塚」に関すると思われる消えた地名

（『新日本地名索引別巻地名レッドデータブック』参照）

| No. | 地 名  | 所 在 地   | No. | 地 名 | 所 在 地   |
|-----|------|---------|-----|-----|---------|
| 1   | 一里木松 | 愛媛県南山崎村 | 10  | 一里松 | 大阪府熊取村  |
| 2   | 一里塚  | 岩手県好地村  | 11  | 一里松 | 愛媛県新谷村  |
| 3   | 壱里塚  | 茨城県吉田村  | 12  | 一里松 | 佐賀県南波多村 |
| 4   | 一里塚  | 埼玉県幡羅村  | 13  | 一里山 | 愛知県逢見村  |
| 5   | 一里塚  | 新潟県原通村  | 14  | 一里山 | 滋賀県瀬田村  |
| 6   | 一里塚  | 山梨県上曾根村 | 15  | 一里山 | 大阪府日根野村 |
| 7   | 一里塚  | 静岡県玉穂村  | 16  | 一里山 | 香川県坂本村  |
| 8   | 一里塚  | 福岡県北川内村 | 17  | 一里山 | 宮崎県高岡市  |
| 9   | 一里塚  | 福岡県桂川村  |     |     |         |

● 「一里塚」に関すると思われる地名（『新日本地名索引第一巻』参照）

| No. | 地 名   | 所 在 地   | No. | 地 名    | 所 在 地    |
|-----|-------|---------|-----|--------|----------|
| 1   | 一里    | 栃木県宇都宮市 | 29  | 一里壇    | 宮城県角田市   |
| 2   | 壺里    | 栃木県宇都宮市 | 30  | 一里段    | 福島県白河市   |
| 3   | 一里川   | 熊本県球磨町  | 31  | 一里坦    | 福島県須賀川市  |
| 4   | 一里木   | 熊本県松橋町  | 32  | 一里壇    | 福島県福島市   |
| 5   | 一里木   | 熊本県蘇陽町  | 33  | 一里野    | 石川県尾口村   |
| 6   | 一里木町  | 熊本県宇土市  | 34  | 一里松    | 山梨県身延町   |
| 7   | 一里小屋  | 青森県むつ市  | 35  | 一里松    | 静岡県御殿場市  |
| 8   | 一里小屋  | 青森県東通村  | 36  | 一里松    | 岡山県山手村   |
| 9   | 一里小屋池 | 青森県東通村  | 37  | 一里松    | 徳島県神山町   |
| 10  | 一里板   | 福島県相馬市  | 38  | 一里松    | 宮崎県日南市   |
| 11  | 一里崎   | 長崎県郷ノ浦町 | 39  | 一里山    | 群馬県安中市   |
| 12  | 一里崎   | 宮崎県串間市  | 40  | 一里山    | 静岡県藤枝市   |
| 13  | 一里沢   | 北海道厚真町  | 41  | 一里山    | 愛知県豊橋市   |
| 14  | 一里沢   | 栃木県栗山村  | 42  | 一里山    | 愛知県音羽町   |
| 15  | 一里島   | 新潟県相川町  | 43  | 一里山    | 和歌山県和歌山市 |
| 16  | 一里塚   | 宮城県宮崎市  | 44  | 一里山    | 香川県綾南町   |
| 17  | 一里塚   | 秋田県神岡町  | 45  | 一里山    | 熊本県阿蘇町   |
| 18  | 一里塚   | 山形県櫛引町  | 46  | 一里山    | 鹿児島県鹿屋市  |
| 19  | 一里塚   | 茨城県水戸市  | 47  | 一里山一丁目 | 滋賀県大津市   |
| 20  | 一里塚   | 長野県塩尻市  | 48  | 一里山二丁目 | 滋賀県大津市   |
| 21  | 一里塚   | 長野県御代田町 | 49  | 一里山三丁目 | 滋賀県大津市   |
| 22  | 一里塚   | 長野県軽井沢町 | 50  | 一里山四丁目 | 滋賀県大津市   |
| 23  | 一里塚   | 長野県戸倉町  | 51  | 一里山五丁目 | 滋賀県大津市   |
| 24  | 一里塚   | 京都府宇治市  | 52  | 壺里山町   | 埼玉県行田市   |
| 25  | 一里塚   | 広島県尾道市  | 53  | 一里山町   | 愛知県刈谷市   |
| 26  | 一里塚   | 香川県飯山町  | 54  | 一里山町   | 兵庫県西宮市   |
| 27  | 一里塚町  | 愛知県瀬戸市  | 55  | 一里山峠   | 宮崎県西米良村  |
| 28  | 一里滝沢  | 福島県西郷村  |     |        |          |

## 辺野古の一里塚

—国道329号改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—

---

平成6年（1994年）3月発行

編集・発行 名護市教育委員会  
沖縄県名護市港二丁目1番1号  
電話（0980）53-5429

印刷（資）北部高速印刷  
沖縄県名護市東江五丁目11番7号  
電話（0980）52-2540（代）

---

R-100  
K-709

辺野古の一里塚  
—国道329号改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—

名護市教育委員会

名護市教育委員会

47P

1994年

25.7cm

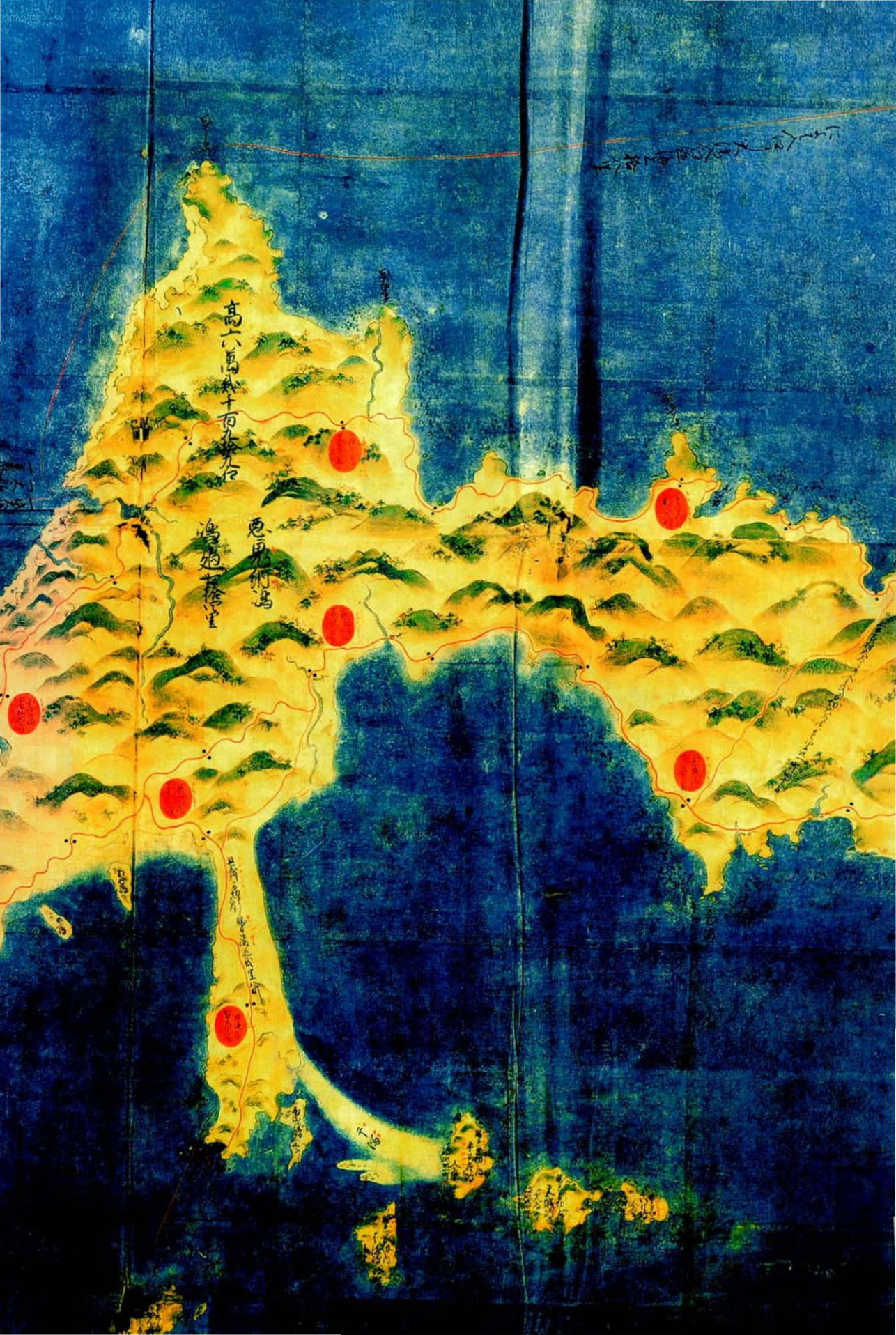
6381

-9.11.10

寄

名護市史編さん室





高六萬八千九百九十九

海炮臺

惠恩廟

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港

鹿港